

可茂農林事務所の普及活動状況 令和8年1月6日現在

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■井戸「畑」会議で、農業高校生と意見交換 可茂地区農業担い手リーダー

12月16日、農業の現場を学ぶ出前講座の一環で、加茂農林高等学校にて「農業を学ぶ君たちへ ～第11回井戸「畑」会議～」が、可茂地区の農業担い手リーダー（指導農業士、女性農業経営アドバイザー、青年農業士）の主催で行われた。

将来の地域農業の担い手確保を目指し、農業高校生に農業現場への理解を深めてもらうことを目的に、農業担い手リーダー14名と生徒15名が3グループに分かれて2回、メンバーを入れ替えて意見交換を行った。

学生からの就農のきっかけや経営品目の選定理由、将来の目標、近年の猛暑の影響などの質問に対し、農業担い手リーダーから体験に基づき回答し、農業の楽しさや厳しさについての理解が深まった。農業の課題に対する解決策についても話し合わせ、意見交換の最後に学生の代表が発表を行った。

農林事務所は、当日の進行を担当するとともに、新規就農への支援制度について情報提供した。今後も農業高校等への農業への理解を深める活動を継続し、将来の農業の担い手の育成につなげていく。

（地域支援第二係）



【担い手リーダーと高校生】

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■水稻の担い手と今後の稲作を検討 美濃加茂地域水稻担い手

12月12日に水田再生協議会（美濃加茂支部）が開催され、農林事務所から地域の中心的な担い手に対して、高温耐性品種の「清流のめぐみ」及び「にじのきらめき」の今年の生育状況、株の姿、収量性、品質等の特徴を説明した。

担い手からは2品種に対する期待感が伺われ、現在地域に導入されている品種から高温耐性品種への変更方針案について意見交換を行い、推進する方向で理解が得られ「清流のめぐみ」研究会活動を開始することが決まった。

農林事務所では、2品種の県奨励品種への決定を想定し、美濃加茂地域に適した高温耐性品種の早期普及、安定生産の実現に向けた活動を継続する。



【高温耐性品種を検討する担い手】

（地域支援第一係）

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■夏秋トマト令和7年産の成績検討 夏秋トマト・白川地域の夏秋トマト生産者

白川町及び東白川村の生産者で構成する「美濃白川夏秋トマト部会」は、令和7年産において過去10年で最高の販売量、単収、販売額、単価を達成した。

12月19日には成績検討会が開催され、平均単収が10t/10aに到達したこと、さらに部会で初めて単収20t/10aを達成した生産者が現れたことから、個人成績表彰は大いに盛り上がった。

農林事務所は、栽培の振り返りをテーマに研修を実施し、今年の生産を総括するとともに、今年できたこと、できなかったことを整理し、来年に向けた課題を提示した。出席者からは、改善に向けた質問や意見が出され、自身の成績をさらに高めたいとの意欲が感じられた。

県内には平均単収12t/10aの夏秋トマト産地があり、農林事務所は部会がこの水準に近づけるための様々な支援を継続する。



【20t/10a表彰の様子】

（園芸産地支援係）